

2023年10月2日(月) 晴れ

ようやく、ようやく、秋の気配。先週までの服装ではちょっとひんやりするし、なにより風景になじまない。それにしても長い夏だった。

－ 予感と徴候 －

先週29日は中秋らしからぬ暑い十五夜だった。30日も同じような気温で昨日の雨が秋を呼んでくれた。涼しくなり、今朝は久しぶりに超早起き。生活習慣も元に戻ってきた。

10月になると来年の手帳や手帳用リーフがだいたい出揃う。例年いまぐらいに自分用の来年の暦をつくる。2004年以來の習慣だから、もう20年になる。それなりに年季が入ってきた。

作るのは3種類、それなりに時間がかかる。でもその時間がいい、『日常業務は戦略的業務を駆逐する』にならないためにも。個人的には、仕事と人生をし、来年を展望する儀式のようなもの。

10月中にざっくりと来年のことを展望しておいて、11月の終わりから12月初めぐらいにかけて、「予感」や「兆し」を自分に求める。今年一年の流れをふり返りながら、あるいは、日常のちょっとした動きや変化から、先読みできることがあるような無いような…。

こういう感覚は2004年以來のもの。当時も時々仕事上で人に話したが、男性の多くは、言っていることがピンとこないらしい。いつか知人が率直にそう言ってくれた。女性は頷く人が多い。

何事も男女差以上に個人差の方が大きい。この感覚を「中井久夫」は著書で明確に言語化していた。そのくだりを読んで感動し、勇気づけられた。実際に「予感」という言葉を使い、「徴候」とわけて説明していた。

「予感」は、徴候の出現を伴うこともあるが、先駆することの方が多い。徴候を把握しようとする構えが生まれる時の共通感覚。明確な徴候以前のかすかな兆候を感受していること。

「徴候」は、必ず何かついでに徴候。何か、全貌はわからないが無視しえない重大な何かを暗示。

11月から12月にかけての「予感」、年を明けて1月中に現れる「徴候」にアンテナをはる。「一年の計」の伏線。

2023年10月6日(金) 晴れ

一週間前の十五夜の日完璧に夏服だった。昨夜は寒くて目が覚めた。今朝も長袖じゃないとちょっと寒い。夏寄りだったカラダ感覚がまだ秋に追いついていない。8日は「寒露」。

－ 「判断」の感度 －

なにごとにも節目がある。それに気づくことも大切。何度も紹介している「中井正一」の言葉は、何度も引き出すほど、普遍的な概念なんだと感じ入る。

『「間」は時間にも空間にも用いる。これはまったく日本的なもの(略)。前の時間がそのまま流れているのは滞っているのである。切って、捨てて、脱落して、新しく生まれるからこそ生きているのである。「間」というのは、この生きていることを確かめる時間の区切り、切断、響きなのである』。

人間は7±2以上の概念の塊を処理できないという。仕事とプライベート、継続して抱えるテーマの数が多ければ自ずと優先順位ができる。優先度の高い順に神経を使い、だんだんと緩慢となる、たぶん。

昨日そのことに気づいた。プライベートで3年前に関わり始めた活動。できる範囲でやればいいことになっていて、こちらはそのつもりで、いや、それほど深く考えずに、そのままきた。

優先度が低かったばかりに、判断のタイミングを逃していた、その事に気づいた。最初は「できる範囲で」ということでも、時間が経過すると、そのうち期待も高まる、アテにする。

そういうことはわかっているはずなのに、緩慢になっていた。本来ならもっと早く退く判断をすべきだった。3年の経過も、一つの節目に思える。

それにしても、「判断」にも感度がある。どうしても優先度の高いものに気がむいて、そうじゃないものは脳の隅の隅にあって、意識することもあまりない。

抱えるテーマに満遍なく気を向けるには、それなりの努力が必要。そう気づけたのは、よかった。『雨降って地固まる』。

2023年10月10日(火) 曇り

季節感覚がズレたままで、10月の中旬に入るけど、どうもピンとこない。そういえば今年は彼岸花もみていない。萩の花のことも頭に浮かばなかった。人間の情緒もかわっていきそうな…。

— エール —

今年で13期になる「プロ講師になろう塾」も、7日の企画プレゼンで本編が終わった。最終的に16名が企画書を提出して、プレゼンは体調を崩した一人をのぞき15名がのぞんだ。

塾のスケジュールがタイトなので、コメンテーターのみなさんには企画文書を初見で質疑応答をしていただくことになる。それでも、提出者本人のプレゼンの様子と合わせ、瞬間的に本質をとらえて質問や意見を発する、さすが。

13期になっても、今年も受講者は多彩。孤軍奮闘しながら、自分の想いをカタチにしようとする、あるいは、すでにしている女性たちがいろいろなところにたくさんいるのだとわかる。3年前は詩人、去年は歌人、今年も元俳優の人もいた。

塾のタイトルからはあまり想像できないが、受講者は時間的に精神的にけっこうハード。主体的にのぞみ、自発的な自習も必要になり、最後はプレゼンもしなければいけない。けっきょく、自分との闘い。

だから終わった後のみなさんの表情をみるとよくわかる。人によって強弱はあるが、達成感、爽快感、解放感が内々に湧いている。がんばった人が授かるご褒美。

毎年最後にエールを一枚物の文書にして受講者のみなさんへ贈る。今年は先達の言葉を5つピックアップした。本を読んで自分の励みになる箇所を筆写してあるもの。

これを受講者の元俳優の人に急指名して読んでもらった。たったいま見たばかりなのに、さすがプロフェッショナル、全然ちがう、心に響いた。ちなみにその5つは次のとおり。

『宇宙に比べるべき容易ならざる大切なものが、自分自身の中にもあるのである。それらのものについて私たちは何を知っているであろう。実は何も知ってはいないのである』(中井正一/1951年)。

『ひとりひとりの人間は、もし自分をこまかく観察する能力を持っているならば、自分自身にとって非常によい教育材料となる』(モンテーニュ/1586年)

『失敗しても成功するまで続ける、人間関係が悪化しても時間が過ぎれば改善すると想像する、現状がうまくいかなくても未来を待つ、この〈待つ〉という行為の効用は大きい』(関野吉晴/2018年)

『全身全霊で打ち込める何かに出合えたら、それだけ努力した後に訪れる憂鬱も経験してみたい。それでこそ目の前にきつとまた新たな世界が広がるはず』(ハン・ドンイル/2017年)

『わたしは願っている。わたしが覚えたことを倣いながら、あなたも自分の力で求めるものに到達できることを。生きよ、そして健やかなれ』(ルドヴィーコ・ヴィンチェンティーノ 1522年)

2023年10月13日(金) 晴

朝からよく晴れ、空の青さが濃くて秋らしい。明日あさっては雨になりそうで、散歩するなら今日。

— 読書の秋 —

ラジオから秋の歌、曲が流れる。ボブ・ディランの「枯葉」が渋い。今週旧知の人が訪ねてきてくれて、貰い物だけど生栗をもらった。ビルの谷間の事務所、窓を開けたままにしていると、ちょっとひんやり。

20年以上前に半分だけ読んだ『悲しき熱帯』（レヴィ・ストロース）に今も印象にのこる一説がある。夕暮れは人間に過去をふりかえらせる時間という。

一日でいえば夕暮れ、一年でいえば秋が過去をふりかえらせる。日は短くなり、陽は弱くなり、当年の残りも短い。新年を視野に、今年の出来事をふりかえり、すると、ぐッと過去へとんで、これまでの道のりなどに思いをはせる。

こういう時たいていは、これでいいのか、このままでいいのかと自問する。だから、気持ちはちょっとざわめく。ただ、これもまた〈心機一転〉のための通過儀礼、今朝のessaisでも話したとおり。

自問して、その答えを求める。そのてっとりばやい方法が読書。秋に限ったことではないけど、自問自答を大いに手助けしてくれたのは本。たかが読書、されど読書、です。

2023年10月17日(火) 晴

昨日に続き、秋晴れ、絶好の行楽日和。日中の気温は25度前後、ただ週末はぐっと冷え込むようで、昨日のうちにウール物をだした。季節の変わり目、体調管理に注意。

#### ー 世界の歴史 ー

この夏に「わけあり」で半額になっていた『世界の歴史大年表 ビジュアル版』（創元社2020年）を買った。第6章の「現代の世界」は1914年から、始まりは第一次世界大戦。

P272、273に見開きで「中東戦争」があった。まったく中東に関して無知、たえず戦いが続いている程度しか知らない。実際、「～戦争」の年表が続く。いま再び戦い勃発、これは遠い話で終わるのか。

仕事の場面で時々、「争っていいことは何もありませんから」とさどすことがある。相談者の話によれば、そのままいけば対立しかねない。そうならず未然にふせぶ手だてを助言する。

争っていいのは、人間の尊厳や精神性を侵されたときだ。ただし争い方がある。いつの頃からか、「人間の寛容さが小さくなってきた」といわれる。格差もあるし、何でも速く、簡単になが進んでせいもあると思う。

国家の戦いに自分のなす術はない。でも個人間のことは何とかなる。未然に防ぐ、防げず対立したら掛け合う・話し合う。それもダメなら、関係を断つ、去る。その方が精神衛生上いい。

大年表の図鑑の最後は、「ロボット工学の物語」。今年はAIJ実用元年。あらためて想う、『われわれはどこへ行くのか』。

#### ー今日の「モンテニュー」ー

「わたしには、憂うつなかで自分の気持ちを養い育てることに、意図と満足とそれを嬉しがる態度があると考えられるのだ。さらに言えば、野心さえそこに混じりこむことがあり得る」(p58)

2023年10月20日(金) 晴→曇→雨

昨夜も今朝もちよっとムシっとした。今日の午後から雨の予報、明日はぐっと気温が下がるらしい。たぶんそれで平年並み。

— 『自然は導く』 —

5年ほど通っている個人美容室、(たぶん30代前半の)男性が完全予約制でがんばっている。いつもカットしてもらいながら、色々な話をする。今回、おっと思ったのは、生活を夜型から朝型にしたとのこと。

まだ一週間らしいが、5時に起きてしっかり食事をして散歩する。起きたときはまだ暗くて、徐々に明るくなるのを見るのが、「なんかいいですよね」。そう、そう。

田舎で暮らす知人と久しぶりに先日話したとき、パートナーが畑仕事に精を出しているのを知った。本業があるけど、力の入れ方は野菜づくりへ傾向。

夜明け前に起きて、畑へ行って、手にいっぱい野菜を持って帰り、一日3食、野菜三味の食卓とか。話を聞きながら、なんというか、「土着」という言葉が浮かんだ。

人間本来の姿だなあという意味で原始的、なんとも健康的。たぶん五感も磨かれていくのではないかな。

そういえば、『自然は導く 人と世界の関係をけるナチュラル・ナビゲーション』(ハロルド・ギャティ みすず書房)の著者は、敬意をこめて、アボリジニの人々やアメリカ先住民たちの能力を紹介している。

『自然とともに自然を利用して暮らし、探検者として画期的な偉業を成し遂げた。人間や動物による移動を、その経路に残された痕跡やしるしから再現する技能が最も高い』

著者はまた、『現代人よりも細やかな感覚と高度に発達した観察力を持つ』とも語っていた。この本は特に都市生活者にとって、けっこう認識を新たにさせる。

朝型にして日の出の時間帯に何かを感じはじめた若い男性、彼の感覚はさて、どう育まれていくか。畑仕事に精を出してずいぶんになる中年男性、その死生観はいかに。ちょっと興味がある。

—今日の「モンテニュー」—

「もしわたしが著述家だったなら、わたしはさまざまな死についての注釈つきの記録を編んでみるだろう。人間たちに死ぬことを教える者は、彼らに生きることを教えることになるだろう」(p69)

2023年10月24日(火) 霜降 秋晴

日曜から三日続きの秋晴れ、日中の気温は24℃の予報。絶好の行楽日和。今のうちにせいぜい歩こう。

— 時をへて知る意味 —

音楽界で訃報がつづいた。70代前半は若い。自分もいつ突然その日  
がくるかもしれない、残り時間も少ない。おのずとその日に向けてどう生  
きるかを考えさせらる。でもそれはこれまで同様、自分の〈内部の仕掛  
け〉と外部の状況に応じて。

そんな風に考える間もなく48才でこの世を去った父のことを想うと、こ  
こまで生きて、残り時間の余裕もあるのは合わせなこと。当時はまだ子  
どもで自分に訪れた人生の局面を表面的にしかわかっていなかった。

精神的に成熟する、これは本当に大事。うんと大人になり、母が去っ  
て、ようやく親が去る、人が逝くことの意味を自分なりに知った。にわか  
にはるか昔の父の想いにおもいを馳せた。

長生きした人はよくもわるくも思い出がたぐさできる。早世した人は  
それが少ない。母のことは日常生活の中で何かのおりに思い出した。で  
も父のことはほとんど思い出していなかった、そのことを思い知った。

これは我ながら驚いた、大きな気づき、発見だった。毎年法事はしてい  
るけど、思い出すのは稀に象徴的なことだけ、なんと親不孝。いたたまれ  
なかった。

長い年月の〈親不孝〉を詫びに、子どもの頃よくつれていったもらった  
ある滝を訪ねた。すっかり寂れていて、訪ねる人も他にない。かつての賑  
わいの記憶は自分の中と、滝のその場の地霊に。しばらく独り、時空に  
ゆらぎ、天を仰ぎ、滝をあとにした。

#### —今日の「モンテニュー」—

「わたしは、ある何人かの人びとをわたしより上の方に眺めている。とく  
に古代の人びとのなかにそういう人びとがいる。そして、彼らのあと  
をわたしの歩き方で追っていくことができないことははっきりわかっている  
ものの、眼で追いかけること、彼らをそれほど高くおし上げている内  
部の仕掛けがなんなのかを判断することをわたしはやめはしないのだ。  
その仕掛けの種ならば、わたしの中にすこしばかりはあるのが認められ  
る」(p75)

2023年10月27日(金) 晴→曇

今日は十三夜、夕方から夜にかけて雨の予報になっている。早めにあ  
がれば、雨上がりの夜空に月がくっきりと浮かぶはず。期待しよう。

#### — へんな誘惑 —

韓国ドラマで邦題『刑務所のルールブック』は面白い。ずいぶん前に  
ケーブルで放映されて録画したのを今もたまに観る。受刑者たちのキャ  
ラクターがうまく描かれていて、笑える。それだけに、刑期を終えて刑務  
所を出た元薬物依存者が、待ち構えていた売人の誘惑に屈してしまう  
シーンは切ない。視聴している誰もが、たぶん、「あーあ…」と声をだす。

昨夜、韓国の人気俳優が薬物容疑で逮捕されたというニュースをみ  
た。写真入りの記事を見て、こちらは絶句。たぶん日本のファンの多くも  
同じだと思う、「まさかあの俳優さんが…」。他にもミュージシャンなど計  
10名ほどが捜査線上にあがっているらしい。

さきのドラマの中のセリフに、「薬物をやめるのは難しいというけどなあ…」と同室の受刑者のボスがつぶやく場面がある。日本では子どもの教育に携わる「先生」の盗撮事件が続いている。内なる誘惑、外からの誘惑。デジタルツールがそれらを助長する面もあって、抗するのはけっこう努力が必要な社会になっている。

ケータイが普及した段階でそう思った。スマホ、SNSの広がり、それは間違いないと個人的には認識した。仕事でもプライベートでも、自身を保つ、自分の軸をもつことの大事さを何度も話してきた。ヘンな誘惑がそこかしこから舞い込む社会、「自分を律する」自分なりの方法を持たないと…。

さしずめ個人的にとりいれているのは、早朝の独り時間に意識を自分の頭における、抽象度の高い本を読む、古典にふれる、定期的に自分を感じたことや考えたことを書きまとめる、等。人それぞれ自分に合った方法をとって、モンテニユではないけど、「自分を教える」とりくみを続けましょうか。

#### —今日の「モンテニユ」—

「わたしの上に型をとってこの像をこしらえながら、わたしは自分の姿をとり出すために、自分を何度も仕立てあげ、つくりあげなければならなかったの、他人のために自分を描きながら、わたしは自分のなかで、初めの頃にわたし使った色よりももっと際立った色で自分を描いた。わたしがわたしの本をつくったというよりは、わたしの本がわたしをつくったのだ…」

2023年10月31日(火) 晴

日が短くなり、朝起きてもまだ暗い。西空の月の光が窓越しに輝く。満月は見逃したが、ほぼまん丸。明日から11月、でも週末の日中は夏日の予報。例年なら衣替えを終える頃なのに。

#### — 習慣 —

仕事柄、いろいろな人と出会い、個別にその人の想いや将来展望などを聴く。おかげで、「人間は想像を絶するほど一人ひとり違う」ということをしっかり認識。頭ではわかっているけど…ということはありません。

出会った人の数もそれなりになるから、人間観察も自分なりにできる。わりとすんなり事を運んでいる人と、そうでない人の差には仕事や生活上の習慣と知識の多少の差にあるように見える

「人生の質は習慣に依る」というのは、一般的にも言われていることで、実感する。個別の相談などでも、よくよく話を聴いて、なるほどその差かと気づくことも多い。

自分の軸をもっているなあと感じた人たちには、20年以上日記を書き続けている人がいたし、読書習慣があって抽象度の高い本を読む人がいた。

ものをよく忘れる人なら、もし「人間は見えるもの、動くものに反応する」ということを知っていれば、どうだろう。たぶん、大きなメモをつけるとか、何か手だてをするはず。

知恵の働きに一定の知識は必要で、特定の分野だけでなく、多様な知識が有効。ちなみに、『創造性を拓く』というBBCのドキュメンタリー番組を書籍化した本の中に、

「わずかな知識はないよりですが、豊富な知識が何にもまして大切だ」

自身にとってよりよい状況をつくるのも、一つの創造、たかが知識、されど知識。知識をたくわえる何かしらの習慣とそれに自分なりに磨きをかける習慣の両立。これからのAI社会ではこれまで以上に大事。

—今日の「モンテニュー」—

「…わたしの持っているもっとも確固とした、そして一般的な考えのかずかずは、言ってみれば、わたしといっしょに生まれたものなのだから。それらは生来のものであり、まったくわたし自身のものなのだ。わたしはそれらを、大胆で強い、しかしやや混乱した不完全な仕方で、生のまま、単純なかたちで生み出した。そしてそれ以来、わたしはそれらを、他人の権威と、わたしと判断が合致している古代の人びとの健全な理論のかずかずによって確立し、強化した。これらの人びとが、わたしにそれらをしっかりと把握させてくれ、いっそう完全に享受し所有させてくれたのだ」